

県内総合

建設情報 *Iwate*

小屋瀬道路の実施は「妥当」

県大規模事業 事前評価などの審議で答申

26年度第3回の県大規模事業評価専門委員会(山本英和専門委員長、岩手大学理工学部准教授)がこのほど、盛岡市のエスポワールいわてで開かれた。同委員会は、県の大規模公共事業となる地域連携道路整備事業の国道281号「小屋瀬道路」(葛巻町)の事前評価や、国道107号「白石峠」(大船渡市、住田町)の再評価について継続審議を行った。審議の結果、「事業実施」とした県の評価は「妥当と認められる」との答申をまとめた。

山本委員長は冒頭のあいさつで、「この委員会では構造物を造るだけではなく、県民の命を守る最前線にいるものと考えている。小屋瀬道路は内陸と沿岸を結ぶ重要な道路だ。事業効果が高く、災害リスクを低減できる事業が求められ、多角的な検討をお願いしたい」と呼び掛けた。

第3回委員会の審議対象は、▽一般国道281号「小屋瀬道路」地域連携道路整備事業(ネットワーク形成型)の事前評価▽一般国道107号「白石峠」地域連携道路整

備事業(ネットワーク形成型)の再評価▽一般国道397号「小谷木橋」(奥州市)の地域連携道路整備事業(ネットワーク形成型)の事後評価など。

県土整備部道路建設課は、小屋瀬道路の事前評価に関して、基本3便益の算出過程をはじめ、トンネル案と現道活用優先案の比較検討の結果などを説明。総事業費は、トンネル案が約170億円、現道活用優先案が約172億円となったことなどを示した。

出席した委員からは「二つの案を比較すると、評価の結果が近いと感じる。維持費を長期で考えた場合、トンネル案の方がコストを要するのではないか」との質問が出された。

同課は「トンネル案は冬期間における除雪費を抑制できる。現道活用優先案は、橋梁3橋を整備することとなり、橋梁のメンテナンス費用も必要となる」などと述べ、総事業費のほか、距離短縮効果、時間短縮効果などの総合的な比較検討の結果、トンネル案の事業効果が大きいことを説明した。

このほか同課は、県央、県南、沿岸、県北という地域修正係数について、評価調書の備考欄に記載することで、評価上、分かりやすい情報を盛り込む考えも示した。小屋瀬道路では「県央(1.514)」の地域修正係数が適用されるとした。

白石峠の道路整備事業では、「沿岸(1.841)」の地域修正係数を適用し、修正便益を算出していることを説明した。

小屋瀬道路の事前評価、白石峠の再評価においては、第3回委員会での審議の結果、「事業実施」とした県の評価は「妥当と認められる」との答申をまとめた。付帯意見はなかった。

国道281号「小屋瀬道路」の地域連携道路整備事業(ネットワーク形成型)では、延長約2kmのトンネル整備を含む約3kmの道路整備を行い、幅員狭小・線形不良区間の解消を図る。計画幅員は一般部が6.5(10.0)m、トンネル部が6.5(8.0)m。この事業を導入することにより、当該区間の課題解消を図り、緊急輸送道路としての機能強化、物流機能の向上、救急搬送の支援などに資することを目指す。

同課では27年度の事業化を目指しており、事業期間は37年度までの見通し。総事業費は現時点で約170億円と試算されている。

VE方式の試行、余裕期間を設定した工事(フレックス方式)、生産性向上チャレンジの試行、賃上げを実施する企業に対して総合評価における加点を行う工事などとなっている。

主な参加資格を見ると、東北地方整備局の一般土木工事C等級で、河川における掘削工の工事を施工実績に付す。地域要件は、本県内に本社(本店)が所在することとしている。

他にも補修の必要な箇所がある状況で、今後も計画的に進めたいとしている。

胆沢川橋は橋長232mで、形式は上部工が鋼単純合成鉄桁橋×6連、下部工が逆T式橋台、小判型橋脚となっている。1987年に架設された。

同橋は橋梁の定期点検で、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態と定義する予防保全段階のⅡと診断された。塗膜にPCBが含まれており、処理年が定められていることもあり、今回

補修を計画した。

補修は、下部工で進めてきた。具体的には、桁の塗り替え、支承の補修、橋脚や床版のひび割れ補修、排水管の補修などを実施している。

これまでの進捗状況を見ると、施工を22年度から実施。22年度にA2橋台からP5橋脚間、23年度にはP5橋脚からP4橋脚間、24年度はP4橋脚からP3橋脚間で施工を進めた。

25年度については、それまでと逆側となるA1橋台からP2橋脚区間の一部までについての工事を発注。その後、P2橋脚からP3橋脚区間の一部についても工事発注した。

残る施工が、P1と2橋脚間の部分からP2とP3橋脚の間までの区間。横沢工業所が請け負う施工が残る部分となり、橋梁補修工事一式、延長43.63m、支承補

修工4基、現場塗装工1330平方m、橋梁補修工一式、橋梁付属物工一式、構造物撤去工一式、仮設工一式などを、2027年3月19日までの工期で進める内容となっている。

胆沢川橋については、旧一般県道永沢水沢線の橋梁で、胆沢川の新金ヶ崎町と奥州市水沢の境に架かり、以前は県管理だった橋梁となる。並行して走る県道5路線を市町道に移管する形で県道前沢北上線が認定されたことに伴い、町管理の橋になった経緯がある。同町が現在管理する橋梁の中でも、規模の大きな橋梁なこともあり、予防保全段階で施工を進めてきてい

る。胆沢川橋での桁の塗装などに関する施工は、26年度での完了を予定している。ただ、胆沢川橋では予防保全の観点から、伸縮装置や橋面防水など、ほかにも補修が必要な箇所が認められる状況となっている。今後も必要な予算を確保し、計画的に補修工事を進めていく意向だ。



補修が進む胆沢川橋

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

災害復旧を支える地域の「碎石」

岩手大学理工学部システム創成工学科准教授

鴨志田 直人



災害が起きたとき、私たちは道路の重要性を改めて認識する。緊急車両が被災地へ向かい、避難所へ援助物資が運ばれ、社会インフラの復旧作業が始まる。こうした活動の多くは、道路が通行できることを前提としている。7月28日に発生した令和8年熊本地震でも、道路の損壊や通行規制が生じ、復旧が進められている。つまり、道路は災害時に人命と暮らしを支える基盤である。

では、被災した道路を復旧するためには、どのような資材が必要だろうか。その一つが「碎石」である。

碎石は、道路の埋め戻しや路盤の構築、仮設道路の整備などに使われる。完成した道路を目にしても、その下にある碎石を意識することは少ない。しかし、復旧の現場では大量の碎石が必要となる。碎石は、山から採取した岩石をそのまま使うわけではない。大きな岩石を破碎し、ふるいにかけて大きさに選別し、道路用やコンクリート構造物用など、用途に応じた製品に仕上げる。必要な品質を保つには、岩石の性質を見極め、各工程を適切に管理する必要がある。

ここで考えたいのは、碎石そのものではない。それを「どこから、どのように供給するか」という問題である。

碎石は1m³で約1.8tと重い。価格は1m³当たり数千円程度だが、復旧工事では大量に必要な。例えば10tダンプ1台で運べるのは約5.6m³である。仮に片道50kmを運ぶと、往復では100kmになる。実燃費を4km/L、軽油を160円/Lとして計算すると、燃料代だけで約4000円もかかる。実際には、これに運転手の人件費や車両の維持費などが加わる。したがって、碎石は安価に見える資材でも、重量が大きく大量に必要なため、

運搬距離が延びれば輸送費の負担は決して小さくない。

だからこそ、地域に碎石場があることには、防災上の意味がある。平時には道路やコンクリート構造物、建物などの整備を支え、災害時には復旧に必要な資材を供給する。必要な場所の近くで碎石を確保できることは、地域の復旧を支える重要な条件なのである。

しかし、碎石場の経営は容易ではない。人口減少や建設需要の縮小に加え、燃料費・電力費の上昇、人手不足、設備更新の負担もある。碎石場は、災害が起きてから造ればよい施設ではない。平時から設備と人を維持し、安定して生産できる体制があつてこそ、いざという時の供給力になる。

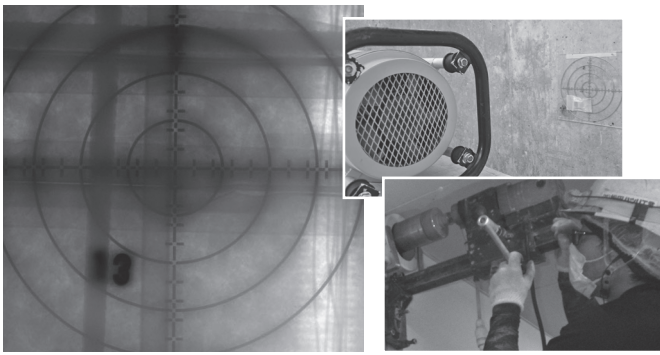
防災というと、私たちは防潮堤、橋梁の耐震化、避難所など目に見える施設を思い浮かべる。しかし、それだけでは地域の復旧・復興は成り立たない。壊れた社会インフラを直す人がいて、そのための資材があり、それを輸送する仕組みがあつて、初めて復旧は動き始める。

大規模災害が起きてから、その必要性に気づくのでは遅い。平時から、地域に何があり、誰が供給し、どう運ぶことができるのかを考えておく必要がある。碎石場も、その一つである。

今回の熊本地震、そして8月の千葉豪雨により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災された地域の日も早い復旧と、皆さまが平穏な日常を取り戻されることを願っています。

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

岩手県の企業では「初」のX線の非破壊検査をします



ハツリ工事、あと施工アンカー、鉄筋探査、コア抜き、カッター工事、解体工事、切断解体工事、耐震スリット工事、樹脂接着剤注入工事、産業廃棄物収集運搬

株式会社 松田ハツリ工業

岩手県紫波郡紫波町中島字前郷171
☎019-676-3520 https://matuda-haturi.com/



アスレチックは地元の木材で



(一社)日本公園施設業協会会員

設計・製作・施工・保守管理
鉄製・木製・擬木・遊戯施設
園路広場・修景・運動・休養・便益・管理施設
体育館・トレーニング・屋外器具
黒板・掲示板・看板

有限会社 サンブリッチ東北

本社・工場/岩手県北上市藤沢7地割195番地1
TEL 0197-68-3860 FAX 0197-68-3865

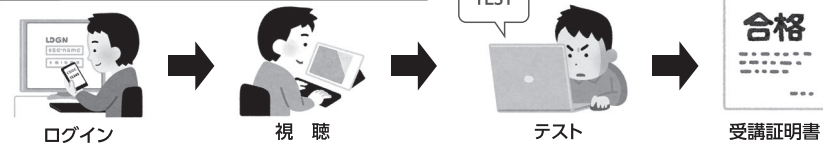
無料の動画でCPDSがとれる

最新の技術工法を映像と音声でわかりやすく習得できる!

セミナーや研修会に参加することなく、WEB上で受講できます。

時間と場所の制約がないので多忙な毎日を送る皆さまに最適です。

簡単操作で誰でも手軽に!



CPDS認定動画

CPDSは、全国土木施工管理技士会連合会の継続学習制度です。本サイトのCPDS認定動画は、同会のプログラム認定(インターネット学習)を受けています。この動画を視聴し、出題されるテストに合格すると、受講証明書がダウンロードできます。受講証明書を提出すれば、CPDSのユニットが取得でき、公共工事の入札や入札参加登録時に加点されます。

PC・スマホ・タブレットでいつでもどこでも!

「建設技術・工法動画サイト」 <https://cpds.kentsu.co.jp>

